

世界の異常天候とその影響評価 (25)

(Climate Impact Assessment, March, 1986, NOAA/NESDIS)

1. 合衆国一乾燥

暖かく乾燥した天候のため、合衆国南東部では火災発生の危険性が著しく高かった。アラバマ、ノースカロライナ、ケンタッキー、バージニア、ウエストバージニア、オハイオの各州では、広範囲で山火事が発生し、今年になってこれまでに 35,000 ha 以上が焼失したと報告されている。被害地域における 12月1日以降の降水量は半年の半分以下であった。

2. ボリビア・ペルー—大雨

ボリビア西部とペルー南部のチチカカ湖周辺では大雨により3月も氾濫が続いている見込みである。増水により湖岸地域では12月始めから農作物や土地・家屋への被害が続いている。これまでに 90,000 ha 以上の農地が水没した。ペルーでは氾濫による出水のため1月と2月の間に 100,000 人の人々が家を奪われた。3月で平年以上の降水量の月が5カ月間続いたことになった。

3. ブラジル北東部—大雨

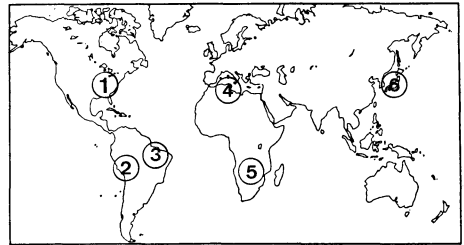
ブラジル南部では今年始めからの降雨により干ばつが事実上終了したのに対し、北東部では大雨による洪水が発生している。セアラ州では3月始めの洪水のため 30,000 人が避難した。

4. チュニジア—生育不良

大雨により3月の干ばつ傾向は緩和されたが、10月から2月まで続いた乾燥状態のため穀物の収穫量は著しく低下すると見込まれている。先に出された予報(米農務省の予報ではない)によると、小麦の収穫量は昨年半の半分以下になる見込みである。

5. ボツワナ・南アフリカ—干ばつ

ボツワナと南アフリカのトランスバール北部では



干ばつにより牧草と穀物に5年続けて被害が出た。ボツワナ北部の生育期間中の降水量は半年の2/3以下であった。

6. 日本—春の大雪

報道機関によると、東京では、この地方としてはこれまでに最も激しい春の吹雪により3月23日に少なくとも13人の死者が出た。東京都心での降雪量は9 cm、周辺部ではその倍にもなった。この春の嵐により都市機能は一時的に事実上マヒ状態になった。

注1：上記各項目の番号は図中の番号に対応している。

注2：日本の春の大雪については、伊豆大島近海の高層事故の死者も含めているものと推定される。

これは、アメリカの NOAA が月1回発行している“Climate Impact Assessment, Foreign Countries”の邦訳で、気象庁気候変動対策室の御協力をいただいています。

(気候変動対策室 中川慎治)